

比礼カカシ・プロジェクト Hirei Kakashi (Scarecrow) Project

上野 裕治 UENO Yuji
境野 広志 SAKAINO Hiroshi

キーワード：カカシ、農村景観、風景のリデザイン
Key Words : Scarecrow, Agricultural landscape,
landscape Re-Design

People think it is the duty of a Scarecrow to scare birds away, but there does not seem to be an effect on them. The concept of "Hirei Scarecrow Project" is "The scarecrows are the friends of farmers", and they have to work during the season growing rice. Scarecrows are made at west of wood studio at our college or from home, and they are designed as abstracted humans or other animals from delightful stories. The hands of two volunteer teachers and students of NID make those scarecrows. These works started from 6 years ago. Students and people of Hirei-village are looking forward to seeing new scarecrows every year. And many people who live in the city are taking a look at the scarecrows and the agricultural landscape. As a result, it makes a good relationship between the agricultural village and the city.



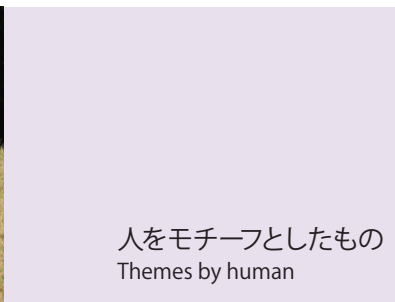
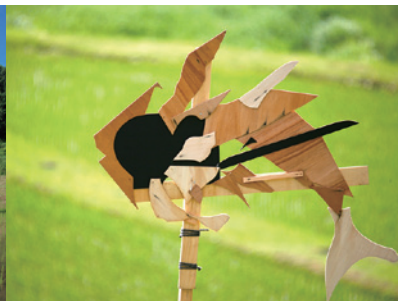
写真-1 比礼の棚田全景 Over look Hirei rice field

「逃げる犬と追いかける私」の連作（上野）
"Me and two dogs running away"
Works series by Ueno

- ・ 2010年 逃げる犬と追いかける私
Me and two dogs running away from me
- ・ 2011年 犬に追われるウサギを追加
add a rabbit running away from dogs
- ・ 2012年 ウサギより先に逃げるタヌキを追加
add a raccoon running away from dogs
- ・ 2013年 犬を追いかけていた私は、じつは熊に追われていた
in fact, I was running away from bear!
- ・ 2014年 私を追いかけていた熊は、じつはヘビに追われていた
in fact, the bear was running away from a snake!



動物をモチーフとしたもの
Theme by animals

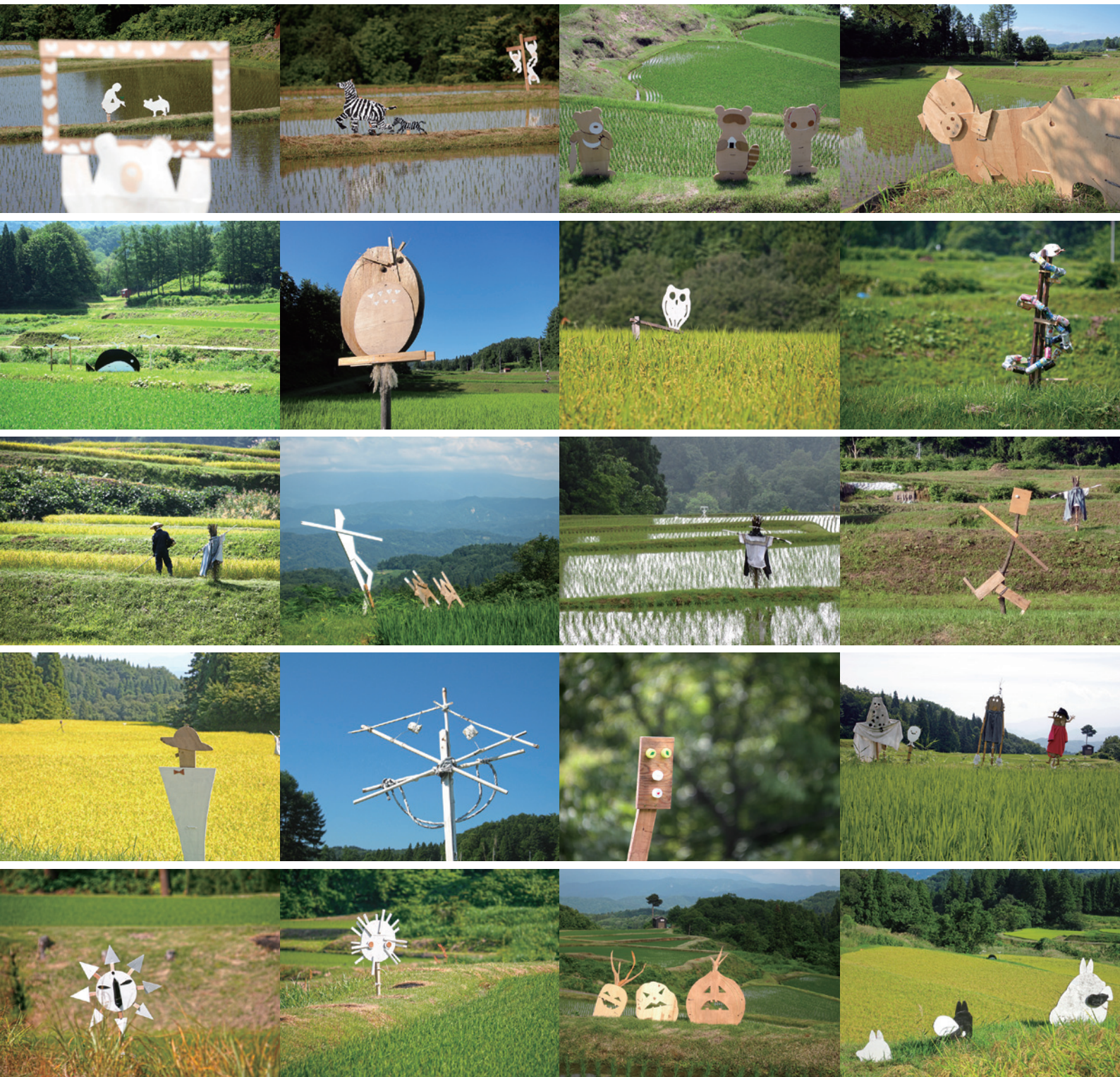


人をモチーフとしたもの
Themes by human



その他のモチーフ
恐竜・クモ・太陽・野菜など
The other themes : dinosaurs,
a spider, the sun, and vegetables





□ はじめに

カカシは田を荒らす鳥を追い払うことがその役目と一般的に思われているものの、どうもその効果はあまりないようだ。実際に農民に聞き取り調査をしてみても、多くの農民はカカシがそれほど鳥を追い払う効果があるとは思っていないようだ。柳田国男¹⁾は「半日見て居ればこれが人間で無いことは鳥にもわかる。雀なども引板鳴子には驚くが案山子の頭には折々は来てとまるかも知れない。」とまで言い切っている。このような状況にもかかわらず、以前から童謡や童話の題材にも使われるほか、全国的にも農村イベントとして「カカシ祭り」が数多く行われており、子供から大人までおそらく形態としてのカカシを知らない人はいないだろう。

農地において鳥獣を追い払うものとしては、カカシ（嗅がす）の音のとおり鳥獣の皮や羽を焼いて吊す、カラスの死骸を模したものをつり下げる、農作業中の人形や弓を持った人形を立てる、キラキラ光るテープを張り巡らす、大きな目玉状の風船を下げる、音響装置によって鉄砲の音やパニック状態のムクドリを流す、など様々な方法がある。しかし人型のものが現在も一般的にカカシとして認識されているわけであるが、ここではカカシの持つ現代的意義を「カカシは農民の友である」と位置づけ²⁾、この考え方に基づいて筆者らが学生たちと製作している新たなカカシ像の実例を報告する。

1. 新たなカカシの試み

カカシが「農民の友」であるとするれば、そのデザインはもっと自由であって良いはずだ。そのような発想のもとに筆者らが長岡市比礼地区の棚田（写真-1）に設置しているカカシは、次のような条件で制作している。

- ・人または動物を抽象化しそこにストーリーを考える。
- ・農村景観と一体となって、農地とカカシの双方が美しく見えるようなものとする。
- ・農民にとって共にいて欲しいと思われるような明るく楽しいイメージのものとする。
- ・田植えから稲刈りまで壊れずに立っていること。
- ・製作材料はあくまでも端材（大学の工房から発生する不要材など）や身の回りのものを使用する。



写真-2 佐藤熊一氏作のカカシ Scarecrow made by Kumaichi Sato

このように一般的なカカシ祭りとは異なり、あくまでも「農民の友」としてイネの作付け期間中、田の中に立って友としての仕事をしてもらう、ということを重視している。

2. これまでの経緯とプロジェクトの内容

「比礼カカシ・プロジェクト」は2009年より始めて今年度で6年目となる。比礼地区の専業農家、佐藤熊一氏が立てていた一体のカカシ（写真-2）がきっかけとなり、筆者がもっとカカシを増やしても良いかと話を持ちかけたことに始まり、現在に至っている。

現在ではカカシを立てさせてもらっている農家は4軒であり、このプロジェクトは地区の集落事業ともなっている。カカシは概ね大学の工房にて製作し、5月末の休日に現地に搬入する。当日は昼前に地区の集落センター前にすべてのカカシを集合させ、製作者がデザインコンセプトやストーリーなど30秒のプレゼンテーションをおこない、それを受けて地区住民の人気投票を行う。（写真-3, 4）投票は子供から老人まで一人3票を持ち好きなカカシに投票する。投票による優秀作品には地区でとれた米（コシヒカリ）区長より贈呈される（1等10kgから5等2kgまで）。そして表彰式の後には、地区の皆さんが用意してくれた昼食をいただきながら、地区住民と学生たちは楽しく交流会（写真-5）を行う。なおこれまでの優秀賞の結果をみると、製作の精度もさることながら、コンセプトやストーリーが地区の人々にどう訴えるかがカギとなるようだ。そういう意味では「カカシは農民の友である」というコンセプトが生きているといえるだろう。6年が経過した現在、地区の住民達は、毎年、今年はどうなカカシが立つのだろうか、



写真-3, 4 プレゼンテーション風景 Presentations of scarecrows



写真-5 交流会風景 Party of farmers and students

と期待して待っている。今後も引き続きこのカカシ達がこの地域の農村生活の友となり、中越地域の特徴ある農村景観となることを願っている。また、近年では長岡市内はもとより県内各地からの見学者や写真撮影に訪れる人も増えてきた。そのことは都市住民にとっても農村景観に興味を持ち、ひいては中山間地稲作農業の現状と未来について考えるきっかけとなるものと期待している。

なお本プロジェクトは2012年 AACA（日本建築美術工芸協会）「風景の Re-Design コンペ」において優秀賞（芦原太郎奨励賞）を受賞した。

謝辞

本プロジェクトを推進するにあたり、長岡市比礼区の皆様、とりわけ田んぼにカカシを立てることを快く了承していただいた4軒の農家の方々に感謝申し上げるとともに、長岡造形大学上野ゼミ、境野ゼミの諸君、多くのボランティア学生の諸君に感謝します。

引用・参考文献

- 1) 柳田国男「案山子祭」定本柳田国男集第13巻、筑摩書房、S.44(1969)、(初出はS.10(1935))、P.119
- 2) 上野裕治「案山子の歴史と今日的意義－新潟県中越地域(長岡市比礼地区)における新たな試み－」日本生活学会第41回研究発表大会梗概集、2014年5月